

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 中津南高等学校耶馬溪校			
学校教育目標	豊かな自然環境や地域人材などの教育資源を活用する教育活動を通して、自ら挑戦する意欲を喚起するとともに、主体的に地域の産業や社会福祉に関わり、将来にわたって地域の発展に貢献しようとする意志や行動力を育成する。					
重点事項	評価項目	評価の観点		評価	今後の改善方法(学校作成)	
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。		<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 校長のリーダーシップのもと、地域と密に連携し、全教職員が協力して充実した教育活動を展開している。 管理職の授業観察や面談、教員間の互見授業を通じ、常に向上心を持って教育改善に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 副校長、主幹教諭をはじめとするミドルリーダーとの情報共有を一層綿密に行い、学校情報の把握に努めていく。 学校スローガン「小さな学校の大きな挑戦」を前面に掲げ、スクールミッション達成の為、教職員と生徒だけでなく地域と共に学校を創っていくよう、日々の教育活動の充実を図る。 	
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。		<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 管理職と教職員の疎通が円滑で、分掌主任を中心に連絡・調整や協力体制がしっかりと築かれている。 第1回学校訪問時の指摘に対して、改善内容はその評価方法も含めて良くてきている。 上記改善から見えた新課題に対し、多角的な視点から取り組んでおり、学校改善への想いが表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、教職員のアンケートをもとに振り返りと改善のPDCAが機能する体制を今後も継続していく。 学校運営協議会を活用し、外部からの意見やアドバイスを参考にしながら課題発見・課題解決に取り組んでいく。 	
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。		<ul style="list-style-type: none"> 極めて良い。 ホタル授業や地域の活動等、生徒が活躍し感謝される機会が豊富で、生徒の成長と地域連携に資している。 コーディネーターのもと住民間で「見守り隊」が結成され、地域との連携協議が円滑かつ効果的に進められている。 広報に積極的で、全国募集の決定とともにHPのアクセス数も急増しており、情報発信が有効に機能している。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校コーディネーターや耶馬溪校見守り隊の方々の助けを借りながら、地域や関係機関とともに行う総合的な探究の時間や耶馬溪自然環境探究などの充実を図っていく。 耶馬溪校ならではの活動(「ホタル授業」や「だいたいクラブ」、地域ボランティア等)をさらに充実させ、生徒の自己高揚感・効力感を高める活動を展開していく。 TikTokやインスタグラムなどショート動画を使ったSNSを活用し、生徒獲得(全国募集)のための広報の充実を図る。 	
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。		<ul style="list-style-type: none"> 良い。 少人数教育を活かした生徒参加型の授業が展開され、きめ細かな指導により授業満足度も高まっている。 多様な生徒が在籍する中で放課後補充学習や学年課題の設定等、基礎学力の定着に積極的に取り組んでいる。 親身な対応が評価される一方、教員間で指導姿勢に差異があり、どの生徒にも公平で一貫した対応が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のポイントを全職員で共有し、スクールプランに沿った授業展開を徹底していく。 学び直しのための放課後補充学習や学年課題などを設定しながら、生徒の基礎学力の定着を図っていく。 互見授業や研究授業を通して、ICT機器の効果的な活用方法やグループ学習の手法などのスキルアップを図る。 生徒授業アンケートを通して教員自らが自身の授業を振り返り、生徒の満足度が上がるような授業づくりに繋がられるよう、管理職による働きかけや教員同士のアドバイスなどの環境づくりを進める。 	
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。		<ul style="list-style-type: none"> 良い。 中学時代に不登校を経験した生徒の多くが入学後、しっかり登校できるようになり、著しい成長を見せている。 職員間で生徒情報が密に共有され、保健室や特別支援教育支援員等との連携が生徒指導上、効果をあげている。 節目オリエンテーションなど、学校行事においてもきめ細やかな指導がなされている。 重大な事態はないが、一部で言動に差異があり、どの教員も適切な距離感を持って接することが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の生徒情報共有だけでなく、日々の保健室記録や特別支援教育支援員からの情報を関係者で共有しながら、生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりを目指す。 人間関係づくりプログラムや各学期始めに行う節目オリエンテーションを通して、生徒が互いに認め合うように働きかけていく。 教職員の言動が不適切なものとならないよう、服務研修のみならず管理職からの声掛けや情報共有など、職員同士のコミュニケーションを密にしていく。 	
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。		<ul style="list-style-type: none"> 良い。 多様な生徒が在籍する中、教職員が密に情報を共有し、個別の事案に対して安全確保に努めている。 害獣対策等の安全確保にとどまらず、教職員の視点で常に改善点を見出し、次の一手を打つ姿勢を期待する。 トイレの建付け不良箇所は早急な修繕を要する。各階の洋式化への改修検討も含め、迅速な対応を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の不具合や危険箇所については、定期的な点検や日々の確認を行い、速やかに対応していくことを心がける。 ヒューマンエラーによる不具合に関しては、全職員で情報共有を図り再発防止のための「仕組み」を構築していく。 トイレの洋式化や蛍光灯のLED化など施設整備については、今後も教育財務課等に要望していく。 	
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。		<ul style="list-style-type: none"> 管理職の声掛けやICT機器の活用によって、生徒に向き合える時間は増えているように感じる。 超過勤務の教職員も着実に減少し、勤務時間内で職務が遂行できるように取組が進められている。 機械化・自動化を積極的に進め、一方で絶やしてはならない対人関係の構築に注力することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> タイムレコーダー記録の毎月のフィードバックを継続し、超過勤務時間に対する意識が上がるようにしていく。 各種マニュアルの活用や執務のDX化により、仕事量の軽減や効率アップを図る。 定期的な学校衛生委員会での情報共有などをもとに「職員のメンタルヘルス」の向上を図っていく。 	
	学校課題の解決に向けた取組等	○入学定員の確保 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。		<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や地域協働、生徒を成長させた実績と新学科の魅力を発信し、定員確保に繋げることを期待する。 学校内にあるたくさんの改善を求める声に耳を傾けていただき、生徒とともに学校を良くしていく取組をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材や地域資源を活用しながら、「地域と共に創り、地域を共に創る」学校として、総合的な探究の時間や各種行事等を推進し、生徒の活躍や成長した様子を発信していく。 管理職を中心に関係各所との連携、情報共有を図り、学校運営協議会が十分機能し、改善が図られるよう取り組み、この地になくてはならない学校としての存在意義を高めていく。 	
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 中学時代に様々な課題を抱えてきた生徒が耶馬溪校に入学して、教職員のきめ細やかな指導や地域の支援のもとで、楽しく学校生活を送り、大きく成長している。この成果は全国的にも注目すべきものといえる。 第1回学校訪問時の指摘事項に対する改善活動は素晴らしい。今後は、生徒と手を携えてより良い学校となるよう、関係部署と連携しながら校内の改善に努めていただきたい。 新学科のもと、さらなる学校の魅力化に取り組み、その魅力を全国に発信して入学者の確保に取り組んでいただきたい。 					
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ウェルビーイングの実現に向け、豊かな人間性と確かな学力の育成に向けて教育を地域と共に推進していく。 困りを抱えた生徒に寄り添いながら、入学した生徒たちを誰一人取りこぼさないように職員間の情報共有を密に行い、日々の教育活動を展開していく。 地域との連携をより広く、より深くしていきながら、生徒の自己効力感が高まるような活動の場を作っていく。 全国募集における県外生徒の獲得が上手くいくよう、中津市との連携を強化していく。 教職員のウェルビーイングの実現に向け、ワークライフバランスの充実を推進する。 					